

平成30年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

平成30年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、「生きる力」を育てるため、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、学力の特定の一部分ではありますが、本調査の結果を有効に活用していきたいと思えます。

また本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひご利用ください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度は、国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bおよび理科について実施されました。

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語 A	やや高い	高い
	国語 B	高い	高い
	算数 A	高い	高い
	算数 B	高い	高い
	理科	高い	高い
中学校	国語 A	同程度	高い
	国語 B	やや高い	高い
	数学 A	やや高い	高い
	数学 B	同程度	高い
	理科	高い	高い

A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

【2】各教科の概要について ※昨年度から引き続いている点には（継続）と記してあります。

<小学校>

	成 果	課 題
国語	○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと	▲目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くこと（継続）
	○漢字を正しく書いたり読んだりすること（継続）	▲話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること
	○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと（新規）	▲文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと

算 数	○異種の2つの量のうち一方の量がそろっているときの「混み具合」を比べること ○十進取表記法で表された数の大小を理解すること ○空間の中にあるものの位置を表現すること ○180°の角の大きさから角度を求めること ○折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること	▲基準量と比較量の関係を正しく捉え、割合を百分率で表すこと（継続） ▲除法で表すことのできる2つの数量関係を見つけること ▲単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること ▲直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係を理解すること
理 科	○安全に留意し、生物を愛護する態度で野鳥のひなを観察する方法を構想すること ○調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析すること ○骨と骨のつなぎ目や堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解していること ○妥当な考えをつくりだすために2つの異なる方法の実験結果を分析し考察すること	▲一つの正しいとされている事象を別の事象に当てはめて考えること（食塩水の溶質と溶媒と全体の関係） ▲実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること ▲妥当な考えをつくりだすために実験結果を分析し2つの異なる方法の実験結果を分析・考察し記述すること

○国語では、慣用句の意味を理解して文の中で使うことや漢字を正しく読むことが、特によくできていました。また、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことがよくできていました。

▲「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと」や「主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと」に課題がありました。普段から、どの授業においても、自分の考えを書いたり、理解したことをまとめて書いたりする授業に努めています。今後は、与えられた条件を取り入れながら考えを書いたり、文を読み返して改めながら書いたりする活動を通して、書く力が向上するように学習指導の充実を図っていきます。

○算数では、分度器を使う問題や空間の中の位置を示すこと、敷き詰められた模様の中から新たな模様を見つけることなど、図形に関する問題がよくできていました。面積が同じ広さに違った人数がいるときの混み具合のような、一方の量がそろっている場合の単位量当たりの量も正しく比べることができていました。また、データの活用において、一つのグラフ用紙に表された2本の折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることもよくできていました。

▲正しく計算することができる一方で、除法で示されている式が生活のどのような場面を表しているかを見つけることに課題が見られました。また、昨年度に引き続き、割合を百分率で表すことに課題が残りました。さらに、直径の長さ・円周の長さ・円周率の関係を正しくとらえられていない様子が見られました。「場面あるいは線分図・式・答え」「直径・円周・円周率」が結びつくような問いかけを授業で意識的に取り組んでいきます。必要な情報を得て、関連付けて考える力が求められています。基礎基本の徹底のもと、一人一人のつまずきに着目し、継続的・発展的に学習指導の改善・充実を図っていきます。

○理科では、ひなを観察するときの留意点や骨と骨のつなぎ目・堆積作用といった科学的な言葉や概念について、定着している様子が見られました。また問題に対応した視点で分析することや実験結果を考察することなど、準備されている選択肢の内容を把握し正しく答えることができました。

▲科学的な言葉や概念は身についているのですが、実験結果や分析により記述することに課題がありま

す。何について記述することが求められるのか、判断することが大切です。「実験結果」を「実験を行って導いた結論」として述べている誤答もたくさんありました。観察・実験を通して、科学的な言葉や概念を身に付けるとともに、観察・実験後のまとめをもとに発表や意見交換することを通して、さらに深まりのある考察を導き出せるように工夫していきます。

<中学校>

	成 果	課 題
国 語	○文脈に即して漢字を正しく読むこと（継続） ○慣用句の意味を理解すること ○古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えること	▲目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと ▲目的に応じて、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと
数 学	○数直線上に示された数を読み取ること ○指数を含む正の数・負の数の四則計算、単項式の除法について正確に行うこと（継続） ○比例式、連立方程式を正確に解くこと ○多角形の内角の和の性質を理解すること ○合同になる条件や長方形とひし形に共通する性質を理解すること	▲基準と比較する量との差を求めること ▲角の二等分線の性質を理解すること（継続） ▲「証明」「確率」の意味を理解すること ▲一次関数に関わる変域、グラフ、変化の割合を求めること ▲「事柄・事実」「方法・手順」「理由」などを論理的に説明すること（継続）
理 科	○脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴や神経系の働きについて理解すること ○適切な光の道筋の説明やアサリが出した砂の質量に関する考察について正しく指摘すること	▲食塩水の濃度を指摘すること ▲風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること ▲実験をするときに「変えない条件」を指摘すること

○国語では、話すこと・聞くことに成果が見られました。話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問したりする力が身についています。これからの授業では、協働的に学ぶ姿が多く観られるようになります。友達の意見と自分の考えの類似点や相違点を見つけ、考えなければいけません。話す・聞く力は、とても大きな役目を話すことになります。今後の授業でも、自分の考えを相手に伝える場を設定し、さらに向上していきます。

▲一方、「書くこと」に課題があります。先の小学校の分析でも課題になりましたが、主語を明らかにし、「誰の（何の）」「どのようなこと」が明確になるように書くことについて課題がありました。日本語は、主語を明らかにしなくても伝わる場合が多く、日常では、主語を意識せずに話すことが多いと考えます。主語・述語の関係を再確認して、正しく話すことを意識しながら、書くことの指導を図っていきます。

○数学では、昨年と同様に四則計算や文字の式の値を求めること、比例式、簡単な連立方程式を解くことができていました。指数の計算問題はやや難易度の高いものでしたが、よくできていました。また、多角形の内角の和、合同条件、長方形とひし形の関係、空間内の位置関係などにも一定の理解が見られました。

▲計算することはできるのですが、生活場面にある数量から、その数量の関係を判断し式を立てることが苦手であるという課題が見られました。また、文字の式が表していることを場面に関連付けて説明することも難しかったようです。昨年も数学用語の意味を理解することに課題がありましたが、本年度も「証明すること」「確率が表すこと」について、理解が十分ではありませんでした。一次関数においても、「変域」「増加量」など専門的な用語の理解が定着していないこと、また、式とグラフが関連付けられないという

課題も見られました。必要な情報を的確に把握し手順を考え、正しい用語を用いて論理的に説明することが求められています。今後の授業では、基礎基本的な計算や数学用語を用いて、「事象・式・グラフ・表」を関連付け、論理的な説明をする経験を増やす授業を行っていきます。

○理科では、脊椎動物や軟体動物の体のつくりの特徴や神経系の働き、太平洋高気圧の特徴など、多くの知識を身に付けている結果となりました。また、選択肢が用意されている場合においては、その知識を使って正しく判断し選択することができていました。記述式で回答する問題への正答率が他教科に比べると高く、よくできていました。

▲多くの情報を関連付けて考えることに課題が見られました。例えば、風向の観測方法や記録の仕方についての知識・技能と「台風の進路予想図」「現在の台風の周りの風向」から、実際に吹く風の向きを応える問題ができていませんでした。「条件を変えると変わってしまう条件」「実験するときに変えない条件」など、条件制御の知識・技能を活用することにも課題がありました。また、食塩水の濃度について、どのように計算されるのか、理解できていないようです。これは、小学校理科の結果とも関連が見られました。今後は、多くの科学的な言葉や概念や分析する技能を身に付けることと並行して、観察・実験から得られた結果や集めた情報、持っている知識を整頓したり関連付けたりして、理論立てて説明する活動のある授業を工夫していきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1)「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、県の平均値と比べて、明らかに上回ったものを中心に「良好な点」、明らかに下回ったものを中心に「改善したい点」としました。

＜小学校＞

良好な点	改善したい点
○ほとんどの児童が、自分にはよいところがあると感じている。(昨年 76%→今年 94%) ○ほとんどの児童が朝食を食べている。(97.8%) ○将来の夢や目標があると答えた児童が多い。(87%) ○ほとんどの児童がいじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている。(97.4%) ○ほとんどの児童が人の役に立つ人間になりたいと思っている。(97.4%) ○家で計画を立てて勉強していると答えた児童が増えた。 (昨年 66%→今年 75%) ○家庭学習に毎日少なくとも 1 時間以上取り組む児童は 73% で県平均よりも多いが、2 時間以上家庭学習する児童は 22%で、県・国の水準より低い傾向が続いている。 ○地域の行事にほとんどの児童が参加していたり(90%)、地域のことを調べたり地域の人と関わる機会があったりする授業受けていたり(83.4%)、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心持っていたり(70.4%)、地域に関心のある児童が多い。	▲将来の夢や目標を持っていると答えた児童は微増したが、県平均を下回っている。 ▲一定の時刻に就寝・起床している児童が県平均を下回った。(就寝 80.1%、起床 90.8%) 特に起床については、昨年度より減少している。 ▲家で学校の宿題をする児童が県・国よりも少ない。(93%) ▲家で、学校の授業の予習・復習をしている児童は、本年度も県平均よりも少ない。ただ、昨年度までの減少傾向は回復傾向にある。また、教科書を使って予習・復習やテスト勉強などの自学自習をしている児童も県平均よりも少ない。 ▲学校や授業以外に読書を全くしないと答えている児童が 21%おり、県・国よりも多い。

○ボランティア活動に参加経験のある児童が多い。(62%) ○新聞を読む児童が県・国よりも多い。 ○家の人と学校について話をする児童が県平均よりも多くなった(昨年 66%→79%) ○算数や理科で学んだことを、普段の生活の中で活用できないか考える児童が多い。(算数 76%、理科 81%)	
---	--

○「自分にはよいところがある」と答えている生徒がたいへん多く、自己肯定感の高さがうかがえる結果となりました。「日々の活動や人とのつながりから自己肯定感が高くなる」という側面と、「自己肯定感が高いから失敗を恐れず様々なことに挑戦できる」という側面が考えられます。自己肯定感の高さはさまざまな活動にプラスに働きます。今後も、地域・家庭・学校で、児童が自分の良さに気づけるような関わりや一人ひとりの個性を発揮できるような活動を行っていきましょう。

○地域の行事に参加し地域の人と関わる機会を持っていたり、地域のことを調べたり、地域や社会で起きている問題や出来事に関心持っていたりするなど、地域に関心のある児童が多いです。さらに、「将来の夢や目標がある」と答えている児童も多く、学校だけでなく地域社会の中で多くのことを学び、地域とのつながりの中で、将来を意識し、健やかに成長している児童の姿が見て取れます。

○算数や理科で学んだことを、普段の生活の中で活用できないか考える児童が多くいました。身近な現象を授業の課題にしたり、クラスで話し合ったり伝えあったりすることに力を入れてきた成果だと考えられます。今後もこのような取組を継続していきます。

○普段から、家でも 30 分以上読書をする児童の割合が大きいです。また、週に 1～3 回、あるいは毎日新聞を読むと答えている児童の割合が大きく、7 人に 1 人は毎日新聞に目を通してます。NIE に力を入れていることや地域と連携して行う活動が多いことが考えられます。また、新聞を読むことや読書が習慣化されている様子もうかがえます。

▲その反面、学校や授業以外では全く読書をしないという児童も昨年度と同じように 5 人に 1 人います。学校では、今後も読書タイムや図書館の利用など読書に親しむ指導を継続します。ご家庭でも、ぜひ、読書を推奨してください。

▲家で、教科書を使って予習・復習やテスト勉強などの自学自習をしている児童が県平均よりも少ない傾向が続いています。「学校から出された課題をやる」+αの学習に取り組む働きかけの工夫を学校においても継続します。

○▲「朝ご飯を食べている」がたいへん多く、また「家の人と学校について話をする」児童が増えました。その反面、「決まった時間に寝ている」「決まった時間に起きている」児童が減少しており、睡眠に関する生活リズムの崩れ、および、そこから波及する健康面、学習面への悪循環が懸念されます。お子さまとともに生活リズムを振り返る時間を持っていただきますようお願いいたします。

<中学校>

良好な点	改善したい点
○ほとんどの生徒が朝食を食べ、一定の時刻に起床している。 ○自分には良いところがある・どちらかといえばあると思う生徒が増えている。(一昨年 65%→昨年 71%→84%) ○将来の夢や希望を持っている生徒が県・国の水準を上回った。(県 70% 市 85%) ○いじめはどんな理由があってもいけないと答えた生徒の割合が県・国とほぼ同水準となった(昨年 89%→今年 94%) ○ほとんどの生徒が家で宿題をしていると答えており、(95%)、平日 1 日あたり 2 時間以上家庭学習している生徒が増加した。(昨年 27%→今年 53%) 県水準よりかなり高い。また、家で予習・復習をすると答えた生徒も 68%いる。 ○地域の行事に参加している生徒がたいへん多く、県・国の水準を大きく上回っている。 ○地域の行事に非常に多くの生徒が参加している。 (国 : 42% 県 : 57% 市 : 77%) ○地域や社会で起こっている出来事に関心が高く、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばあると答えた生徒が 48%おり、昨年度と比較して大幅に増加した。(昨年 29%) ○ボランティア活動に参加経験のある生徒が多い。(81%)	▲放課後や週末に何をして過ごすかについて、「家で TV やビデオ・DVD を見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」を放課後 73%、週末 86%の生徒が選んでおり、これは県・国と同水準だが、「家族と過ごしている」を選んだ生徒は、県・国の水準よりもやや低い。 (放課後 県 54%、国 50%、市 49%) (週末 県 66%、国 61%、市 56%) ▲新聞を読んでいるかについて、「ほぼ毎日」「週に 1, 2 回」と答えた生徒が 19%で昨年度と変わらないが、TV やインターネットでニュースを見るかについては、「よく見る」「時々見る」と答えた生徒が 84%から 90%へと増加した。 ▲家の人と学校での出来事について話をする生徒が昨年よりも微増したが、県・国よりやや少ない。(昨年 68%→今年 73%)

○朝食を食べ、一定の時刻に起床、家庭学習にもある程度しっかり取り組むなど、生活習慣が定着している中学生がたいへん多いことがわかります。家での 2 時間以上の学習は、市内中学校全校で目指している習慣です。ご家庭での励ましを今後もよろしくお願いします。

○これまでと同様、地域の行事に参加しているという生徒は県・国と比較してかなり高く、さらには、地域や社会をよくするために考えを持ち始めた生徒も増加しています。地域の中で生徒が活動し成長している様子がうかがえます。全小中学校で ESD を基盤とした地域に根ざす学校経営をさらに推進していきます。

○「自分には良いところがある」という自己肯定感や「将来の夢や希望を持っている」という未来への展望を持つ生徒が増えています。家庭・地域・学校での取り組みの中で、多くの人とつながり自分自身や社会を見つめる機会をこれからも積極的に持っていきたいものです。

▲「同じくらいの時刻に寝ている」に対して、「している」と答えた生徒は増加していますが、「同じくらいの時刻に起きている」に対して、「している」と答えた生徒の割合は微減、「どちらかといえばしている」と答えた生徒が微増しており、就寝時刻、起床時刻のコントロールについて、よい習慣が崩れつつあるよ

うに感じられます。ご家庭での見直しをお願いします。

▲新聞に親しむ生徒はほぼ昨年度と同じ割合で存在しますが、TV やインターネットでニュースを見るについては増加し、ほとんどの生徒がTV やインターネットを利用しています。前述の就寝・起床時刻との関連性も鑑みると、健康に害を及ぼさないか心配です。TV やインターネットなどの利用について、大人によるコントロールが必要です。ご家庭でもぜひ話題にしてください。学校でもスマートルールなどを利用した指導を継続します。

▲放課後や週末の過ごし方について、「家族と過ごしている」を選んだ生徒や「家の人と学校での出来事についてよく話をする」を選んだ生徒は、県・国の水準よりやや少ない状態です。家族で過ごしているという意識が弱いことが気になります。今課題となっている生活習慣のことや将来のことについて、保護者のみなさまの経験談からご助言いただくなど、ご家族での会話を増やすことを、ぜひ、意識してください。

(2) 正答率との間に関連が見られた質問項目について

約50問ある生活質問項目の中から、学力調査の正答率と関連が見られた項目について、主なものを9例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右端欄内のポイント数は、各項目について「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差
自分にはよいところがあると思う児童生徒は正答率が高い。 5年連続同じ傾向	小学算数A 14ポイント差 中学国語B 10" " 中学数学B 13" "
家の人と学校での出来事について話す児童生徒は正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語B 20ポイント差 小学算数B 24" " 中学国語B 16" " 中学理科 12" "
家で、学校の授業の予習・復習をしている児童生徒は正答率が高い。 3年連続同じ傾向	小学国語B 22ポイント差 小学算数B 23" " 小学理科 14" " 中学国語B 15" "
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 4年連続同じ傾向	小学国語A 35ポイント差 小学算数A 37" " 中学国語B 35" " 中学数学A 24" "
就寝時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。	小学算数A 21ポイント差 小学算数B 19" " 中学国語B 16" " 中学数学B 13" "
家で、自分で計画を立てて勉強している生徒は正答率が高い。	小学算数B 18ポイント差 小学理科 14" " 中学国語B 18" "

	中学数学B 17 //
算数・数学の授業で学んだことを、他の授業やふだんの生活に生かそうとする児童生徒は正答率が高い。	小学国語B 20ポイント差 小学算数B 20 // 中学数学A 11 // 中学数学B 13 //
理科の授業で、自分の周りの人に説明したり発表したりしている児童生徒は、正答率が高い。(昨年度参考：友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意だと思う児童生徒は正答率が高い。 3年連続同じ傾向)	小学国語B 22ポイント差 小学算数B 21 // 中学数学A 20 // 中学数学B 29 //
前の学年までに、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった児童生徒は、正答率が高い。	小学算数B 31ポイント差 小学理科 16 // 中学国語B 16 // 中学数学B 11 //

○いくつかの質問が、新規・変更・削除となっているものの、ここ数年の分析から、教科の正答率と関連があると思われる質問項目に共通しているものがあります。

○自己肯定感が高い児童生徒、家族との会話が深い児童生徒、家での予習・復習や計画的に学習を進める学習習慣が身につけている生徒は正答率が高いという結果となりました。心の安定度が、学習成果や学習習慣の定着に影響していると考えられます。

○基本的な生活習慣に関する結果からは、睡眠に関する生活習慣が身につけている児童生徒は正答率が高いことがはっきり見えてきました。特に、起床時刻についてはたいへん大きな差となって表れました。お子さんとともに、生活リズム全体を振り返る糸口としてください。

○昨年度の傾向にあった「テレビを見る時間やゲームをする時間などを家の人と決めている」児童生徒の正答率が高いというのと合わせて考えると、「自分で自分の生活をコントロールできる」という目指したい児童生徒の姿が浮かび上がってきます。お子さんの年齢に合わせて、ご家庭での取組に役立てていただきたいと思います。

○「算数・理科への学習、地域での活動や地域の方と関わる学習に意欲的な児童生徒」は、教科に関わらず、正答率が高いという傾向が見て取れます。各教科の基礎基本、英語科で培ってきたコミュニケーション能力、さらに、ESDの視点を生かした環境学習やふるさと学習で身に付けた“学習へ向かう姿勢”や“考える力”などが、学習全体に良い影響を与えていると考えられます。今後も継続していきます。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>学級集団の育成

児童生徒それぞれが自分の居場所を見いだせるように学級集団を育成するという視点を重視し、児童生徒が学び合い、高め合うような学級集団の状態を作るよう工夫します。

<イ>ていねいな教育、鍛える教育の推進

教員が児童生徒一人一人と向き合って、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、「見通しと振り

返りのある授業」を心がけます。また、児童生徒が課題解決に向けて、話し合ったり考えを練りあったりする場面を積極的に取り入れ、協働して学びながら様々な課題に挑戦していけるよう工夫します。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

生活リズムが崩れるきっかけは、「夜更かし」と「不規則な食事」です。決まった時刻に朝食や夕食をとること、起床すること、就寝することを心がけた生活ををお願いします。

<イ>テレビやゲーム、携帯電話、スマートフォンに費やす時間の約束

市内の全小中学校が「スマートルール」を定め、家庭と連携した節度あるデジタル機器の利用指導を行っています。これには各ご家庭の協力が欠かせません。児童生徒が賢い使用者として成長していけるよう、大人がよいお手本を示しながら、導いてあげてください。

<ウ>家族の団らんを大切に

家事のお手伝いをしている時や食事のテーブルを囲んでいる時などに、家族で話をしましょう。互いの話を聴き合い、認め合うなどのあたたかなふれ合いが、児童生徒の心の成長には不可欠です。自己肯定感の高さが児童生徒の学習意欲を支える要因ともなります。

【5】むすび

ここ数年の全国学力調査における勝山市の状況を見ると、小学校では市の平均正答率が国語・算数ともに年々改善し、平成30年度は県平均以上のレベルを達成することができました。3年ぶりに行われた理科の調査においても大きな成果が見られました。しかし、学習内容によっては、改善が必要な分野があります。今回の調査の分析のもと、目標を明らかにし、今後ともしっかりと基礎学力を身につけられるよう、授業改善を図ります。

中学校においては、昨年度、残念ながら両教科で県の水準を下回りましたが、本年度はすべての教科において、県平均レベル以上またはほぼ同等の結果となりました。今回の結果とともにこれまでの取り組みを振り返り、さらなるレベルアップを目指して授業改善に取り組んでいきます。

子どもたちには、社会人として将来をたくましく生き抜く力を育てたいと考えます。この全国学力・学習状況調査では、学校教育の成果の一部を調査したに過ぎませんが、そのような力を育成するためには、小中学校での学習内容を十分習得することが重要な基礎になっていきます。そうした観点から、この調査の結果を踏まえ、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。